

## 科 目 名

# 生薬学Ⅱ（生薬資源学）

Pharmacognosy Ⅱ  
(Medical Herb Resources Science)

2年 前期 2単位 必修

村 上 光太郎

## 概 要

植物・動物・鉱物などの天然薬物に由来する薬用材料を、そのまま医療に用いたり、医薬原料に用いたりするものを生薬という。その生薬においては、植物を基原とするものが最も多い。そこで、植物由来の生薬について、その基原植物の学名（和名・ラテン名）、薬用部位、薬効成分（構造式・薬理作用）、和漢薬での用途などを詳細に概説する。

さらに、サプリメント・健康食品・応用生薬学（漢方）などについても解説を行う。

## 一般目標

薬として用いられる植物由来の生薬の基本的性質を理解するために、それらの基原、含有成分などについて、また、現代医療で使用される生薬・漢方薬について理解するために、代表的な漢方処方への適用及び薬効評価法について基本的知識を修得する。

## 授業計画

1. キク科植物由来の生薬について
2. キキョウ・オミナエ科植物由来の生薬について
3. オオバコ・ゴマノハグサ科植物由来の生薬について
4. ナス科植物由来の生薬について
5. シソ科植物由来の生薬について
6. ムラサキ・ヒルガオ・アカネ科植物由来の生薬について
7. ガガイ・キョウチクトウ・リンドウ科植物由来の生薬について
8. マチン・モクセイ・エゴノキ科植物由来の生薬について
9. ツツジ・セリ科植物由来の生薬について
10. ウコギ・ミズキ・ザクロ科植物由来の生薬について
11. フトモモ・ウリ・クロウメドキ科植物由来の生薬について
12. ヒメハギ・ニガキ・ミカン科植物由来の生薬について
13. トウダイグサ・フウロソウ・マメ科植物由来の生薬について
14. バラ・ケシ・ボタン・キンボウゲ科植物由来の生薬について

## 薬学教育カリキュラムおよび到達目標

### C7 自然が生み出す薬物

#### (1) 薬になる動植物

##### 【薬用植物】

- 2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。
- 3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。
- 5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。

##### 【農薬、化粧品としての利用】

- 1) 天然物質の農薬、化粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。

#### (3) 現代医療の中の生薬・漢方薬

##### 【漢方医学の基礎】

- 5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。
- 6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。

##### 【漢方処方の応用】

- 1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。

## 授業方法

通常の講義形態をとるが、適宜、プリントを配付し補足する。

## 評価方法

定期試験で評価する。

## 教 材

北川 勲 他著「生薬学」第7版（廣川書店）